

戸隠善光寺往来

十返舎一九著。文政五（1822年）刊。

やつがれそれよりとがくし さんけい しぐわん あらまちむ れい い かしはばらよりすぐみち
僕自後戸隠へ参詣之志願候而荒町牟礼井を打過従柏原直道
ほくこくかいだう とがくしさん みちやうやくつゑをすゝめとうざんせしめくはうぜん ぬかつきたてまつり
は北国街道左之方戸隠山之道漸投杖令登山廣前二奉額突
さうおう たづね とがくしみやうじん たちからをのみことい せ ないくうあい でん
掃翁二相尋候へは戸隠明神は手力雄命伊勢内宮相殿之左二
まつり むかしあまのいわと おしひらきたま そのいわとをなげうちこのところ おち
も祭有之昔天磐戸を押開給ひし時抛其磐戸此所二落たり
いふく づりやうごんげん つたへいふしんぎやうきうづ がんくつ ちんざあり
と云九頭龍権現ハ傳曰神形九頭ニ而岩窟之中ニ鎮座有
なしをもつてじんぐとすゆへ むしばをうれふるものなしをたちしんぐはんこん き
以梨為神供故二世俗患蟲菌者断梨心願懇祈すれは平愈
うたがひなし つたへ すなはちとうざん ちしゆのかみ じんひ の よしうけたまはり
無疑と申傳候是則當山地主神ニ而神秘之由承 候右記行
おもむきかくのしとく ふ ぐ きかう
之趣如斯候不具

十返舎一九著

青洲三武敬書

註 早稲田大学蔵書目録から「戸隠善光寺往来」で検

索。画像11コマ、12コマ、13コマ目。